

■今月の特選句

2012年3月号

林檎剥く北半球は真っ白に

柳 紅生

林檎を地球に見立てて、可笑しい句になりました。赤道の部分の皮を帯状に残しても面白いじゃんか。遊び心が滑稽を生むという見本の句。

出し渋りとろける愛のチョコレート

西をさむ

「決断のなかなかできぬ女性」かも知れませんね。ギリチョコ乱発の八方美人よりは、手堅いお方です。子を産む時は、きっと難産でしょうね。

調査てふ名前で食べる鯨かな

彦阪義久

この句には、「調査」という名目で捕獲することに内心忸怩たるものを感じていることが正直に出た。マグロも調査名目で捕獲の時代がくる。

悪知恵を伝授してゐるおでんかな

清水呑舟

裏金を作り、みんなで呑みましょなどと不屈きなことをやってたのはバブル時代のことで、今は夢。もはや伝授するほどの悪知恵もない。懐旧の句。

年末のジャンボシャボンの類なり

山下正純

ジャンボの夢が泡に。シャボンの泡にかけた句で、味わい深いものがあります。十枚で三千円が紙の泡。はずれジャンボをジャボンと捨てる。

足だけが別の生き物冬のミニ

栗倉健二

寒いのに見せたい気持優先の、女心の我慢強さには感心します。上半身はダウンジャケットで膨れきっているのに。下半身はやはり別の生き物。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 死ぬまでは女と手炉の灰均す
・・・大岡越前知らぬ男に
小林英昭
- 熱爛や理性の衣脱げ易く
・・・朝に後悔のパンツをはくか
金澤 健
- 悴みし人差し指でスクロール
・・・スマートだとはホンとは言えぬ
種谷良二
- 寒濤に先逃ぐ船長哀しけれ
・・・騎士道知らず大恥をかく
丸山紘一
- 笏のごと携帯かざし初詣
・・・この神域に電波飛び交ふ
酒井鹿洋
- 観覧車回転の度日脚伸ぶ
・・・ならば秋には日脚ちぢまる
渡辺さだを
- 螺旋階段まつすぐに恋の猫
・・・猫の世界にや紆余曲折はなし
山本 賜
- スケートの下手で上げたる好感度
・・・浅田真央には手が届かない
広瀬雅幸
- LEDの碧を点して寒の月
・・・白熱電球は仲秋の頃
高橋素子
- 風を読むことばかり長け風車
・・・風車は出世頭になるか
宇井偉郎

痕跡をとどめぬ凶器軒氷柱

・・・心臓一突きされる怖れも

高橋 都

着膨れて財布出るのを嫌がって

・・・財布を擬人化しましたねえ

久松久子

大ぼらを真面目に聞いて日向ぼこ

・・・広げきつたる大風呂敷に

青木輝子

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 齧られて脛瘦せこけし干大根
ナポレオン冬将軍に不覚とり | 青木輝子
青木輝子 |
| | 断捨離を生の規範と春に期す
藁束の減りて太るか寒雀 | 青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 職退きて髭を蓄はへ冬いくつ | 青山桂一 |
| 【佳作】 | 正月や来ても帰るもよき子孫
弾き初めや若きに負けじ脈踊る
犬の嗅ぐ枯木に懸かる忘れ帽 | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| | うった姫許さぬ地球温暖化 | 麻生やよひ |
| 【佳作】 | 女正月いまさらと夫独り言
さも序列あるかに並ぶ寒の鯉 | 麻生やよひ
麻生やよひ |
| | ごめんなさい今年は雛が飾れない
海底で恋を語るか内裏雛 | 足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 流し雛恋の重荷を背負いつつ | 足立淑子 |
| | 青春をメタボとともに卒業す | 有富洋二 |
| 【佳作】 | たんぼぼはそよ風号で出張す
盲点を突かれてしまひ目刺焼く | 有富洋二
有富洋二 |
| | 寒梅の道はつづくよ縄暖簾
ほろ苦き義理チョコバレンタインの日
独り居の鬼もおいでと豆を撒く | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| | サンショウウオうつらうつらと春を待つ | 栗倉健二 |
| | 日脚伸び齧られし脛さすりをり | 安藤淑子 |
| 【佳作】 | 鬼は内外より豆を投げたいな
春愁や結婚歴も還暦よ | 安藤淑子
安藤淑子 |
| 【佳作】 | 春月や古稀を迎へしかぐや姫
紀元節甘い大人に白ける子
校庭を我がもの顔に孕み猫 | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| | 似たようなボタン繕ひ春うらら | 井口夏子 |
| 【佳作】 | 蒲公英や老ひては許す事ばかり | 井口夏子 |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| | 極寒の火傷しそうな鼻の穴 | 井口夏子 |
| 【佳作】 | すき焼鍋肉ねぎの間に国境線
女か馬か居酒屋の客無口なり | 池田亮二
池田亮二 |
| | 厩出し重力効かぬ靴を履く
今日こそを明日こそに替え桜餅 | 石川節子
石川節子 |
| 【佳作】 | 寒泳の川ごと少女抱きけり
山風が裏木戸叩く追儺の夜
かいつぶりぴよこんとはずみつけ潜り | 板倉肱泉
板倉肱泉
板倉肱泉 |
| 【佳作】 | 啓蟄や虫の居処悪き妻
獅子身中の虫は誘はず地虫出づ
地鎮祭の祝詞の声に蜥蜴出る | 伊地知寛
伊地知寛
伊地知寛 |
| 【佳作】 | 毛皮着て素足放り出し街を行く
極小のプロレタリアの鏡餅
社会の窓開けたるままに初詣 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 雪山を遠く離れて近く見ゆ
寝正月神も疲れてしまひけり
一回りして熱爛の冷めにけり | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | 新築はソーラー仕様冬ぬくし
救急車スピードダウン雪の道 | 井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 | 春の畑耕しひとりの余生なり
亀虫の壁にはりつき寒明ける
日の丸の旗は押入れ紀元節 | 今城夏枝
今城夏枝
今城夏枝 |
| 【佳作】 | 猫の手も借りたい頃に猫の恋
種選び水に浮く奴除きけり | 宇井偉郎
宇井偉郎 |
| 【佳作】 | 炬燵より匍匐前進物を取る
景品の一合枱にて豆撒きぬ
高杯にキャラメル載せて雛飾る | 宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎 |
| 【佳作】 | 灯を消さば五人囃の笛太鼓
金剛杖死なば墓標となる遍路
春風を杖で呼びたりおばあさん | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 貧すれば流行の風邪も寄りつかず
仏壇の床下さわぐ猫の恋 | 越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 | 鬼やらひ意外に小さき力士の手 | 越前春生 |
| | 寒夕焼鴉の帰るしるべとて | 奥脇弘久 |
| 【佳作】 | 冬薔薇やはり鋭き棘のあり
三寒を二度繰返し四温待つ | 奥脇弘久
奥脇弘久 |
| | 湯屋の蜘蛛御慶申すと下りけり
手袋も脱がずに拝むおびんづる | 笠 政人
笠 政人 |
| 【佳作】 | 禿頭をカモフラージュして冬帽子 | 笠 政人 |
| | 挨拶も無くどか雪となりにけり | 加藤澄子 |
| 【佳作】 | 交通安全の旗を振らされ雪だるま
一杯の白湯に蘇生氷点下 | 加藤澄子
加藤澄子 |
| | 寒林を少し利口になって出づ
寒風や吹きざらしなる日章旗
メール打つ釦多すぎ冬ごもり | 加藤 賢
加藤 賢
加藤 賢 |
| 【佳作】 | 寒林を少し利口になって出づ
寒風や吹きざらしなる日章旗
メール打つ釦多すぎ冬ごもり | 加藤 賢
加藤 賢
加藤 賢 |
| | 雨風に勝つつもりなし雪婆 | 金澤 健 |
| 【佳作】 | 誰よりも抜け道を知る小春風 | 金澤 健 |
| | わが影の二十頭身日脚伸ぶ | 川島智子 |
| 【佳作】 | ビルの群れ墓石に見える夕霞
初雪や婆いそいそとおしゃべりに | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| | マフラーの首よりほかを頼らざる
食べて寝て食べて太って雁帰る | 久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 | 雁帰るインフルエンザ置き土産 | 久我正明 |
| | ドラゴンにハメハメハーと竜の玉
竜の玉ころころと恋をして | 工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 | 付け睫毛どこに付けやう福笑ひ | 工藤泰子 |
| | 潜水艦薄氷割つて浮上せり | 倉方 稔 |
| 【佳作】 | 不審者の如く徘徊探梅行
雪模様デジタルテレビモザイク状 | 倉方 稔
倉方 稔 |
| | 雪下ろし酒一升で済む仲間 | 黒田忠一 |
| 【佳作】 | 除雪車の来て帰る頃また積もる | 黒田忠一 |

- 声もなく鮑のたうつ踊り焼
 【佳作】 盗撮者フィギア観てからやめたらし
 日々目刺これで私も土光さん
 小杉 隆
 小杉 隆
 小杉 隆
- 田舎から狐狸もでてくる遺産分け
 【佳作】 底冷や尿瓶気弱な音たてて
 小林英昭
 小林英昭
- 雪の道すってんころりん澄まし顔
 【佳作】 いつまでも若いつもりでずっこける
 そばにいてそばにいてくれもっとそば
 齋藤八兵衛
 齋藤八兵衛
 齋藤八兵衛
- 優雅なぞ格闘技なるカルタ会
 【佳作】 携帯のメールで飛び交ふ御慶かな
 酒井鹿洋
 酒井鹿洋
- 着ぶくれて八起叶はず荒大師
 【佳作】 猿股のもこが消えけり去年今年
 鐘楼を登る春著の御居処かな
 佐藤古城
 佐藤古城
 佐藤古城
- 鬼は内福は外現代時事情
 【佳作】 ドカ雪に捨て場捜し腰痛増す
 健診でおしゃべりはずみ用紙ない
 佐藤義子
 佐藤義子
 佐藤義子
- 注連縄の形のままにどんど焼
 【佳作】 お鏡は真っ黒焦げのどんど焼
 海山道のお狐道中節分会
 佐野萬里子
 佐野萬里子
 佐野萬里子
- 入り来て悴める手が賽を振る
 をんなみな颯爽をとこみな冬眠
 【佳作】 百代の過客の揺れて雛の燭
 猿渡 仁
 猿渡 仁
 猿渡 仁
- 昨日見た景色も一夜で初山河
 【佳作】 冬ごもりふと口遊ぶ子守唄
 澤田 薫恵
 澤田 薫恵
 澤田 薫恵
- 飾り餅パック磨いて三年目
 【佳作】 雪溜り居酒屋泊り楽天さん
 老いたとて腹にでつかい福笑ひ
 柴田真一
 柴田真一
 柴田真一
- 叱りたる子と呼ば入るる炬燵かな
 【佳作】 一匙を吹きては母になづな粥
 清水呑舟
 清水呑舟
- 予期もせぬ災禍は隣る春炬燵
 下嶋四万歩

- | | |
|------------------------|-------|
| 下取りの価値なき身にも春の風邪 | 下嶋四万歩 |
| 【佳作】 春雷に五十歩百歩笑ひあふ | 下嶋四万歩 |
| 年用意密に髭剃る山の神 | 壽命秀次 |
| 初春のスカイツリーにイナバウア | 壽命秀次 |
| 【佳作】 玄関にクニャリブーツの寝てをりぬ | 壽命秀次 |
| 禿頭の頭の天辺や冴返る | 白井道義 |
| 【佳作】 一切の問答無用恋の猫 | 白井道義 |
| 八方に八方美人福寿草 | 白井道義 |
| 【佳作】 タイ焼きは尾から食べる家風のように | 鈴木和枝 |
| 微妙に違う鯛焼き達の目の位置 | 鈴木和枝 |
| 裏表見る癖鯛焼きも首をかしげてた | 鈴木和枝 |
| 冷えざれやうまいコーヒーあついうち | 鈴木哲也 |
| 【佳作】 正月も歩道に止まる自転車だ | 鈴木哲也 |
| 新年や犬も元気に散歩出る | 鈴木哲也 |
| 【佳作】 若旦那高嶺の花に懐手 | 高田敏男 |
| 凍蝶と酒を飲んでるホームバー | 高田敏男 |
| 節分や角一本の山の神 | 高田敏男 |
| 節分のデパ地下巻き寿司あふれたる | 高橋マキコ |
| 女子会もチョコを持ち寄りバレンタイン | 高橋マキコ |
| 【佳作】 貼り付けた懐炉トイレに落とし居り | 高橋マキコ |
| 猫に竈私に小春あればよし | 高橋 都 |
| 【佳作】 上司など知らんぞマスク冬帽子 | 高橋 都 |
| 【佳作】 化かされて狐のコート買ふ破目に | 高橋素子 |
| 未亡人戦火に遭ひし御内裏の | 高橋素子 |
| 【佳作】 寒の日の滑稽の句を詠めるかな | 田中 勇 |
| 冬堇喉仏の寂なりけり | 田中 勇 |
| 西成の天国ならぬ冬地獄 | 田中 勇 |
| 編針や雷パンツと擲揄されて | 田中早苗 |
| 腑の中をぐでんぐでんに寒の水 | 田中早苗 |
| 【佳作】 待合室大欠伸して四日なり | 田中早苗 |
| 【佳作】 上戸下戸汁粉を啜る鏡割り | 種谷良二 |

	教師の声遙か彼方や日向ぼこ	種谷良二
	闇汁の舌も引っ込む舌ざはり 食前か食後か迷ふ玉子酒	田村米生 田村米生
【佳作】	雌を追ふ夫追っ掛ける猫の妻	田村米生
	軒氷柱太る夫婦で意地張って 進路異なる友と電車で卒業期	土居忠行 土居忠行
【佳作】	巢の蜘蛛に哲学ありや静かなり	土居忠行
【佳作】	人連れし犬にももの言ふちゃんちゃんこ 猿回し猿に拾はず年の豆 立春の豆こぼれをり新勝寺	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	血統書かなぐり捨てし猫の恋 盆梅の思ひのままに色模様 初午の太鼓ドンドロ董女消えて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】	寒明や今日から酒をぬるくする 注射器で血を吸い取らず針供養	西をさむ 西をさむ
【佳作】	とるものもとりあえずとてふきのたう 読初の売ると決めたるミステリー 笹鳴や繰り出る道をランニング	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	交番に搜索願いうかれ猫 省エネを褒められ冬のナマケモノ 残飯の雑炊転じ高級品	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	我慢また男の美学懐手 その人は津軽訛りで雪語る	彦阪義久 彦阪義久
【佳作】	捨て台詞一寸残る白障子 セーターの縞馬肥り始めけり	久松久子 久松久子
【佳作】	付和雷同などするもんか寒椿 春隣スキップの仕方思ひ出す 春寒や紅茶の色の褪せてをり	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	不意打ちのごとく仕掛くる鬼やらひ 何人のうちのひとりやバレンタインデー	広瀬雅幸 広瀬雅幸

- 【佳作】 水漬をザラ紙舐めみる好好爺
湯豆腐に水割り二杯馬齢の餉
沈没の面接試問建国日
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
- 寒の内ひとまづ鳴りをひそめてる
【佳作】 石橋を叩けば寒の音がする
高飛車に寒風我を脅したる
藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉
- 芽と目の合ひぬ小春日の昼休み
大寒の朽ちし大樹に手を合はす
【佳作】 先導の落葉もありて吹き溜る
藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子
- 節分の鬼不足する幼稚園
【佳作】 幼子も好きな子に打つ鬼は外
撒かぬまま豆食べてゐる爺と婆
前 九疑
前 九疑
前 九疑
- 【佳作】 エロ写真焚火にくべて熱くなり
冬枯と不知不識に枯れにけり
鮫肌も鰐には勝てぬ鱧と鮫
松尾軍治
松尾軍治
松尾軍治
- 【佳作】 巡る春「絆」に急かる見合かな
吠ゆるだけ自民に愛想付きし春
丸山紘一
丸山紘一
- 賑やかな孫の初湯を覗く罪
馬鹿らしき河馬の億ション冬ぬくし
【佳作】 ちよろちよろとちよろぎ顔出すお重かな
三木蒼生
三木蒼生
三木蒼生
- ひとまずは忘れましようよ雪見酒
春近し野太き声のりす走る
【佳作】 薄氷の解けぬ日もあり夫婦仲
三塚不二
三塚不二
三塚不二
- くつろげる浅蜷にごめんと汁鍋へ
盛り上がるミカンのほろを食ふ食はぬで
【佳作】 合格に声出したくて飛ぶ春泥
三橋百笑
三橋百笑
三橋百笑
- きんきらのポーチに冬の灯かな
古賀メロディ聴きつ冬枯れの野をゆけり
【佳作】 一疋の蜜柑頬張りあきたらず
宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝
- 作業場の隅に鎮座す獅子頭
御神馬に着地決まらぬ寒鴉
【佳作】 寄付石の頭蹴り蹴り寒雀
村上美和
村上美和
村上美和

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| | 雪道の婆さまよろめいてはをれぬ
春宵の少し離れて父子星 | 百千草
百千草
百千草 |
| 【佳作】 | 消しゴムで消へ去る痛み春の雪 | |
| | 春祭り屋台の列にケバブ売り
冷えきった両手で掴む鯛焼き
春祭り人波を漕ぐ宝船 | 森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 | 春場所で綱が取れるぞ頑把瑠都
来年はスカイツリーから福豆を
鬼よりも強い鬼婆々鬼は外 | 森 要
森 要
森 要 |
| | 闇汁や底に得体の知れぬもの
短日や飯の催促する舅 | 守屋八郎
守屋八郎
守屋八郎 |
| 【佳作】 | 新婚や互ひに風邪のうっし合ひ | |
| 【佳作】 | 蹲の水薄氷になりたがり
落第と合格の季語ならびる
恋猫のいづれが夫いづれが妻 | 八木 健
八木 健
八木 健 |
| | 今年もか高等遊民年金生
真顔にてどこか戯ける福笑ひ
なみのりの宝船乗り酔ひにけり | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 一徹といえど氷柱のなほ脆し
満点の悔なき着地椿落つ | 柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | 春立つや頑固の夫も癩と来る
春の叩齒無し同志の話し合い
春うららゴールキーパー吾が子猫 | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 深淵に過去閉ざしをり厚氷
緑児よ目方以上の湯婆なり | 山下正純
山下正純 |
| | 羽子板の弁慶に力もらひけり
朝練の敵も味方も息白し
冬の朝焼け駅弁の箸止める | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | 春の雷かはいこぶつてこはがつて
ながいこと立つてゐる古茶の茶柱 | 山本 賜
山本 賜 |

- | | | |
|------|----------------|-------|
| 【佳作】 | 大嘘に誰驚かぬ万愚節 | 横山喜三郎 |
| | はしごして婚活ごっこ春うらら | 横山喜三郎 |
| | 譲り合ふ齡となれり姫始 | 横山喜三郎 |
| | 瘦せた背を妻に洗はす雪夜かな | 渡辺さだを |
| 【佳作】 | 沸々とおでんが流す泪かな | 渡辺さだを |